

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度 技術情報第10号（普通期水稻のトビイロウンカ）について（送付）

このことについて、下記のとおりまとめましたので送付します。

平成22年度 技術情報第10号

1 対象病害虫 トビイロウンカ

2 対象作物 普通期水稻

3 飛来及び発生状況

(1) 7月1～7日の巡回調査（飛来世代成虫期～第一世代幼虫期）では、発生ほ場率が1%（平年6%）であった（技術情報第9号参照）。

(2) 7月13～22日の巡回調査（飛来第一世代幼虫期～第二世代成虫期）での発生ほ場率は17%（前年47%、平年8%）と前年より低いが、平年より高かった（表1）。

(3) 現時点での発生密度は25株当たり1頭程度と低いが、今後の増殖が予想される。

4 防除の考え方

(1) 本年は海外飛来性害虫の各飛来波の幅が広く、明瞭な飛来ピークが捉えにくい、予察灯等への誘殺状況から、防除適期を下記のとおりとした。

(2) トビイロウンカに対する防除適期（粉剤・液剤・粒剤等による防除）

6月22日飛来虫：8月6～12日頃（第2世代幼虫）及び9月2～8日頃（第3世代幼虫）

7月6日飛来虫：7月23～29日頃（第1世代幼虫）及び8月18～24日頃（第2世代幼虫）

5 防除上注意すべき事項

(1) トビイロウンカは増殖率が年間1,000～1,500倍と非常に高く、8月下旬以降には高密度となり坪枯れ被害を生じる。ほ場内の分布にはムラがあるので、出来るだけほ場全体の発生状況を確認する。

(2) 稲の株元に生息するので、粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くように散布する。

(3) 薬剤散布に当たっては、農薬の使用基準を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。

予察灯等のデータは防除所ホームページ<http://www.jppn.ne.jp/kagoshima>に掲載中。

表1 トビイロウンカの発生状況 調査日：7/13～22

地域名	調査ほ場数	発生ほ場率(%)		
		平成22年	平成21年	平年
南 薩	10	30	20	12
北薩平坦	24	4	58	9
北薩山間	22	23	45	8
大 隅	6	33	33	5
県 計	62	17	47	8

平年値は2000年～2009年までの平均

巡回調査地点

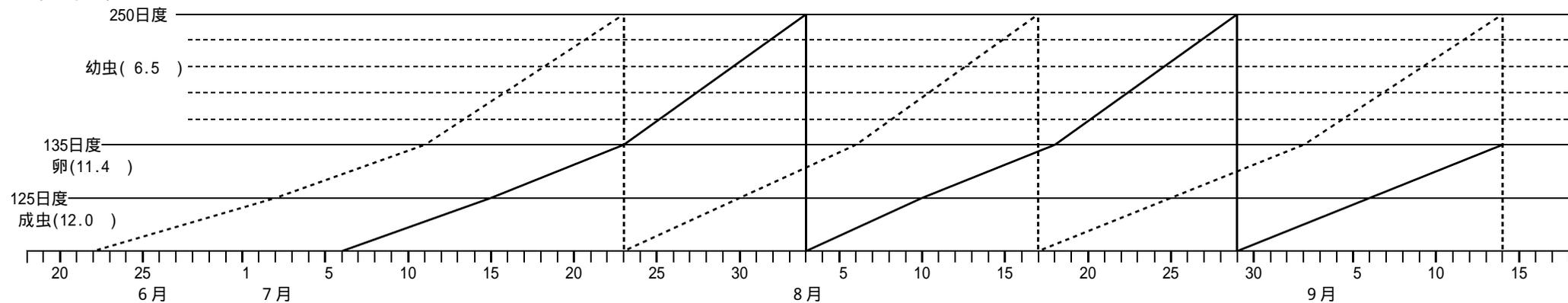
- 南 薩： 南九州市知覧町永里・川辺町古殿・川辺町勝目
日置市伊集院町大田，いちき串木野市大里
- 北薩平坦： 鹿児島市東佐多町，蒲生町楠田，始良町三拾町
霧島市隼人町住吉・国分上小川，薩摩川内市宮崎・高江
出水市野田町屋地・高尾野町東干拓，出水市六月田
薩摩川内市入来町浦之名，阿久根市鶴川内
- 北薩山間： さつま町宮之城平川・宮之城時吉・鶴田大角・中津川，薩摩川内市祁答院町上手
伊佐市菱刈前目・田中，伊佐市大口金波田・大田・山野，湧水町北方
- 大 隅： 曾於市末吉町高松・大隅町笠木，鹿屋市野里

1. 海外飛来性害虫の有効積算温度による発生経過予測図（鹿児島地方气象台：鹿児島のデータを使用）

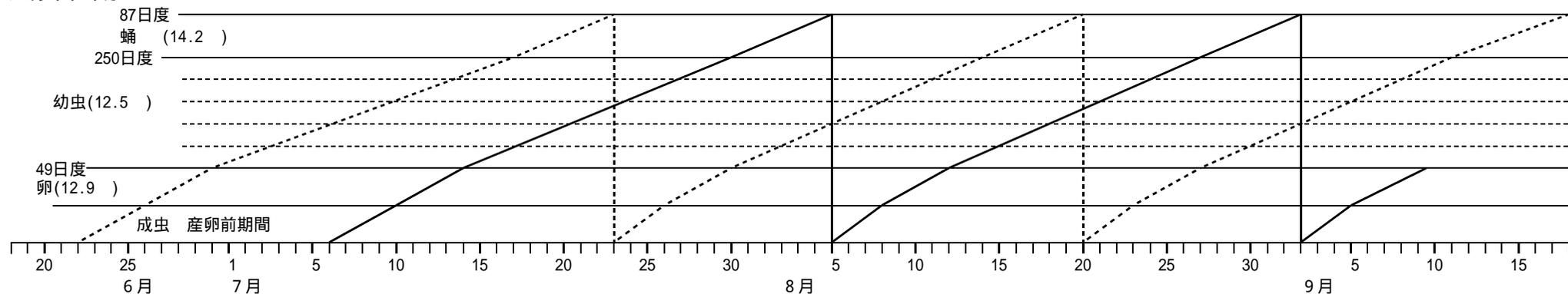
2010年7月26日 作成

鹿児島県病害虫防除所

1. トビイロウンカ



2. コブノメイガ



(注) 気温の低い地域では予測より2～4日程度遅くなる。

